



第2回検討委員会での ご意見と対応

- (1) 第2回検討委員会でのご意見と対応
- (2) 「走りやすさ」の追加分析

(1) ご意見と対応



◇第2回検討委員会で挙げたご意見について、基本方針の4本柱で整理。

分野	ご意見	対応
はしる	・ 走りやすさの変化について、「走りにくい」と答えた方の属性を確認し、現計画の成果や課題を確認すべき。	⇒回答者の居住地域別のクロス集計を行い、傾向を確認しました。
	・ 自転車施策を含め、市内の交通施策のモニタリングが出来るよう、パーソントリップ調査の実施が望ましい。	⇒実施主体となる国に、実施の意向を確認します。
	・ 自転車ネットワーク路線の前後区間で整備形態が変わる場合、自転車利用者が分かりやすく通行できるよう配慮が必要。また、郊外部の自転車通行空間整備について、居住誘導区域の鉄道駅周辺の主要な自転車走行路線を対象路線とすることで良いが、前後区間において同様の配慮が必要。	⇒整備検討時において、前後区間での走行ルールが分かりやすい整備形態を選びつつ、通行位置が変わる場合などは、誘導サインを設置するなど、きめ細かな対応を検討します。(基本的に車道左側通行を促す整備を進めることで、ルールの統一が図られる)
とめる	・ 商店街利用者に分かりやすい駐輪場の情報提供が必要であるなど、きめ細やかな対策が必要。	⇒まちなかの駐輪場位置を周知するために、案内看板の設置や広報に努めます。
いかす	・ スマートシティ構想との連携やMaaSでの役割を考慮していく必要がある。	⇒連携可能な施策を整理し、他計画と関連付けて実施できるよう検討します。
	・ 免許返納などにより高齢者の移動手段が変化中、自転車の活用を検討する必要がある。	⇒高齢者の自転車活用について、担当課とニーズなどを確認しつつ、施策を実施します。
まもる	・ 中学生に対しても、「いかす」「とめる」を指導していく必要がある。	⇒各学校での指導の充実に向け、支援します。

(2) 「走りやすさ」の追加分析 (令和2年度調査)

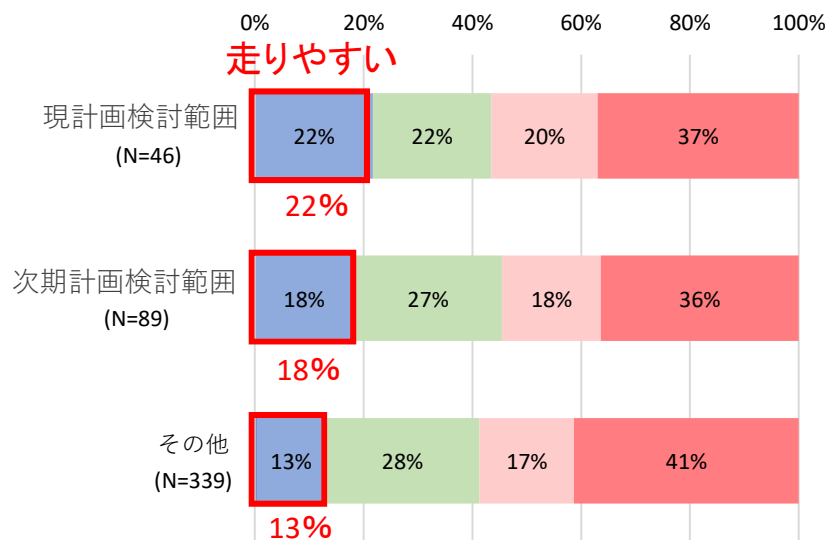


平成22年調査と令和元年調査の『自転車での走りやすさ』に関する設問で、市民・高校生ともに大きな変化が無かった。そこで、**回答者の居住地域を検討範囲の内外に分けて再集計**を行った。

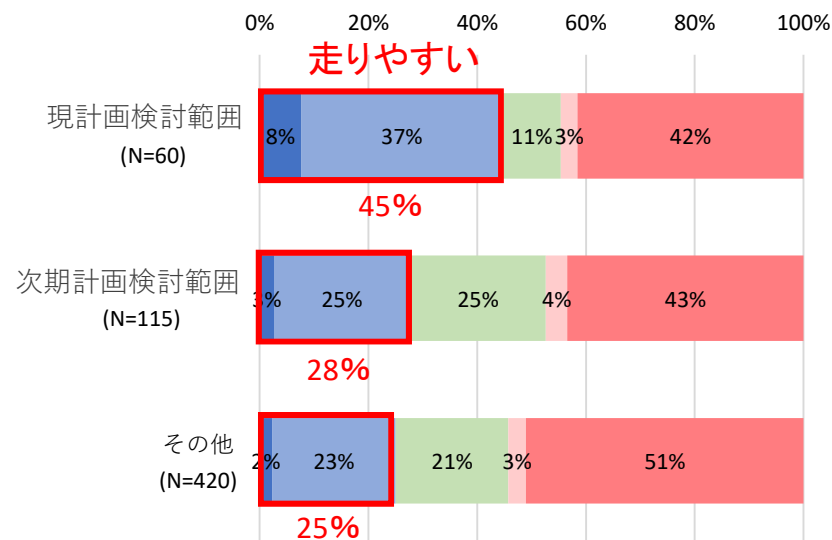
(本分析での検討範囲とは、自転車ネットワーク路線の検討範囲のこと)

◇市民、高校生ともに、現計画検討範囲の「走りやすい」が最も多い。特に高校生は、「走りやすい」が20ポイント高い。
⇒現計画により、現計画検討範囲の自転車走行環境の向上に寄与したと考えられる。

【市民】



【高校生】



■ とても走りやすい ■ まあ走りやすい ■ 普通 ■ やや走りにくい ■ 非常に走りにくい

【居住地の分け方】

・居住する小学校区の小学校が各検討範囲に含まれる場合、その範囲内の居住者として集計。